

平成 27 年度マリンワーカー事業  
(吉野熊野国立公園田辺及び白浜沿岸オニヒトデ等調査駆除業務) の結果について  
(お知らせ)

紀伊半島南西部の沿岸海域は、黒潮による影響を受けて、熱帯と温帯の海域の特徴を併せ持っており、熱帯性の生物であるサンゴ群集のみでなく、藻場・干潟といった多様な生態系が成立しています。環境省では、当海域の多様性を支えるサンゴ群集を中心として成立した生態系を保全することで、海域の景観の保全及び生物多様性の確保に資することを目的に、今年 3 月、吉野熊野国立公園の沖島（おきのしま）及び四双島（しそうじま）周辺海域において、サンゴ被度調査と、オニヒトデ・レイシガイ等のサンゴ捕食動物（以下、サンゴ捕食動物）の生息状況・サンゴ食害状況調査を実施いたしました。

今回の調査の結果、沖島周辺海域では、高被度（約 70%）のテーブルサンゴ群集が確認されました。サンゴ捕食動物の生息密度も低く、サンゴへの食害は少ないと考えられます。沖島については、この高被度のサンゴが中心となり形成する海中景観を今後も維持することができるよう、引き続き、サンゴ被度調査を継続していきます。

一方で、四双島周辺海域では、サンゴ死骸が多く見られ、生きているサンゴよりも、サンゴ死骸の被度が高い状況でした。当海域では、過去の調査でオニヒトデの生息とサンゴ食害が確認されており、今回の調査でもオニヒトデの生息密度が高いことから、今回確認されたサンゴ死骸は、オニヒトデのサンゴ食害によるものである可能性が高いと考えられます。四双島については、今後、サンゴ被度の回復及び他海域へのオニヒトデの生息範囲拡大防止を目的として、オニヒトデの駆除に取り組みます。

また、当海域におけるオニヒトデの移動については未解明な部分が多く、オニヒトデ生息範囲が水面下で拡大する可能性があることから、今回調査した二つの海域に限らず周辺海域についても、今後、関係行政、ダイビング事業者等の団体との連携体制の構築をしながら、オニヒトデの駆除、及び生息状況・サンゴ食害状況についての情報収集に努めていきたいと考えております。

**※調査の写真・動画については、提供させていただきますので、お申し出ください。**

1. 調査位置・日程（詳細は別添 1 「位置図 1～3」参照）

- ①「沖島（和歌山県田辺市）」 北側（深度-5m）・西側（深度-6m）

平成 28 年 3 月 14 日

- ②「四双島（和歌山県西牟婁郡白浜町）」 西側（深度-3m、-7m）・南西側（深度-3m、-7m）

平成 28 年 3 月 16 日

平成 28 年 3 月 17 日

2. 調査方法

別添 2 「調査方法」をご参照下さい。

### 3. 調査結果

#### ①現在のサンゴ被度について

沖島では、民間団体による当海域における過去の調査結果と同様、高被度（約70%）のテーブルサンゴ群集（エンタクミドリイシ、クシハダミドリイシ等）が確認されました。

また、四双島周辺海域においては、南西側深度-3mラインでは約40%被度のサンゴ群集（ニホンミドリイシ等）が確認されましたが、それ以外の調査ラインでは、藻類に覆われたサンゴ死骸が多くみられ（8~100%）、正常なサンゴの被度は低く（0~16%）なっていました。特に、四双島南西側深度-7mでは、サンゴの被度が0%となり、サンゴ群集がほぼ消失していることが確認されました。



テーブルサンゴ群集



サンゴ死骸

#### ②サンゴ食害動物の生息状況・サンゴ食害状況について

##### 【オニヒトデ】

沖島では、民間団体による当海域における過去の調査結果と同様、オニヒトデの生息密度は低い結果となりました。

一方で、四双島においては、民間団体による当海域における過去の調査結果と同様、オニヒトデの生息密度が高い結果となりました。特に、四双島では比較的サンゴ被度の高い深度-3mライン（100 個体/ha~333 個体/ha）では、ほぼ生きているサンゴが見られない深度-7mライン（33 個体/ha）と比較して、生息密度が非常に高くなっていました。オニヒトデによる食痕の数も同様に、深度-3mライン（12~24 個）の方が、深度-7mライン（0~2 個）より高くなっていました。

さらに、確認した個体の大きさは、20cm 未満の個体しかいなかった沖島と比較して、四双島では直径 35cm 以上のものが増えていました。



食痕を確認する調査員



オニヒトデを確認する調査員



オニヒトデ



オニヒトデと食痕

#### 【レイシガイ】

今回の調査では、沖島周辺海域・四双島周辺海域ともに、レイシガイの生息数は低く、対策の必要性は低いと考えられます。



レイシガイ

#### 4. サンゴ保全に向けた今後の方針について

今回の調査の結果、サンゴ群集の減少が多く見られる四双島では、サンゴ捕食生物であるオニヒトデの生息密度が高いという傾向がみられたことから、今回の調査で確認されたサンゴの

死骸は、オニヒトデによる食害であると考えられます。

今後は、サンゴの保全上重要と思われるオニヒトデの駆除について、四双島周辺海域で進めていく必要があると考えています。(なお、四双島周辺海域では、2009年から2010年にかけて、民間団体によるオニヒトデの駆除を試みた経緯があります。) また、当海域におけるオニヒトデの移動については未解明な部分が多く、オニヒトデ生息範囲が水面下で拡大する可能性があることから、今回調査した二つの海域に限らず周辺海域についても、今後、関係行政、ダイビング事業者等の団体との連携体制の構築をしながら、オニヒトデの駆除、及び生息状況・サンゴ食害状況についての情報収集に努めていきたいと考えております。

#### 5. 添付資料

- ・別添1 「位置図1～3」
- ・別添2 「調査方法」

平成28年4月21日(木)

担当 田辺自然保護官事務所

自然保護官 岩野 公美

TEL : 0739-23-3955 FAX : 0739-23-3966

携帯 : 080-2454-0846